

(様式第 16 号)

令和 4 年度みやぎ環境交付金事業（計画・実績）概要書

市町村名	仙台市	
事業名	野生鳥獣対策強化事業	
<事業目的>		
近年、住宅地周辺においてツキノワグマの出没が相次いでおり、令和 2 年度は過去最多の出没件数を記録した。また、ニホンザル対策としては、群れや地域特性に合わせた捕獲対策を実施しており、人里に慣れた群れの多頭捕獲用に大型捕獲施設の運用を行っている。	二酸化炭素削減効果	kg-CO ₂
	その他の効果	
本事業では、ツキノワグマによる被害を未然に防止するため、専門業者による現地調査を踏まえた誘引物や移動経路の特定、被害防止対策に係る助言等を行うほか、必要に応じてドローンを使用した調査や麻酔対応を行う。また、ニホンザル対策として効果的な捕獲対策を実施するために、群れの行動範囲や行動パターンを正確に把握することが可能な GPS 発信機の装着を行う。さらに、イノシシ対策として住宅地への侵入経路を柵の設置により防止する。		
<事業内容>		
ツキノワグマの出没の状況に応じて、専門業者に現地調査を依頼し、誘引物の特定や移動経路の特定を行うとともに、被害防除対策に関する技術的な助言を行った（計 19 回）。また、住宅地周辺で目撃情報が寄せられた際には、センサーカメラやドローンを用いた追跡調査を実施した（カメラ設置個所 2 ヶ所、計 5 個）。なお、人身被害等が発生		
する恐れがある場合には緊急捕獲を行うが、鳥獣保護管理法の規定により銃器を使用できない場合、麻酔銃による捕獲作業を行った（計 2 回、うち 1 件は現場確認のみで麻酔銃は使用せず）。また、ニホンザルによる被害を軽減するため、人里に繰り返し出没するニホンザルの群れについて、GPS 発信機を装着し、正確な群れの行動パターンを把握することにより、一度に多くのサルの捕獲が可能な大型捕獲施設の効果的な運用を図ることとしていた。GPS 発信機を装着する群れを検討する際、新たに人里付近に出没しつつある二口 B 群について、GPS 発信機うい装着し正確な行動パターンを把握することで効果的な対策の推進が期待できることから、二口 B 群のニホンザル 1 頭に GPS 発信機を装着し、日中の移動経路や泊まり場等から行動パターンの把握と検証を行った。	被害防止対策に関する現地調査の様子	
さらに、住宅地におけるイノシシ被害を防止するため山地から住宅地への侵入経路となる場所への柵設置を推進し、泉区鶴が丘四丁目北公園にワイヤーメッシュ柵を設置した。		

<その他>

当年度の事業費：(実績) 7,794,600 円

事業量：ツキノワグマ出没に対する現地調査 19 件

：追跡調査 センサーカメラ調査 3 か所、21 日間 2 か所、14 日間

：ニホンザルへの GPS 発信機装着 1 頭、約 10 ヶ月

：イノシシ対策の防除柵 設置費(市有地)

事業実施期間：令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 2 月 24 日

補助率：(実績) 80%